

令和6年度 第1回 評議会の概要報告

開催日	令和6年7月24日(水) 10:00~11:10
開催場所	みなとみらいグランドセントラルタワー9階 神奈川支部内会議室
出席評議員	澤田委員、多田委員、田沼委員、永野委員、早坂委員、前島委員、丸山委員、宮越委員 (五十音順)
議題	(1) 令和5年度 決算報告 (2) 令和5年度 神奈川支部事業報告 (3) 健康保険証とマイナンバーカードの一体化(マイナ保険証)に関する制度のポイント
議事概要 (主な意見等)	<p><b>議題1. 令和5年度 決算報告</b></p> <p>事務局より議題1について説明</p> <p><b>【議長】</b> 令和5年度決算報告について、ご意見、ご質問をいただきたい。</p> <p><b>【事業主代表A】</b> 協会けんぽの準備金残高は5兆2,076億円で、協会けんぽの年間の財政規模約11兆円の半年分に満たない額との評価は、将来の推計を基にされているものと理解している。どの程度の準備金残高があれば十分な水準を確保しているといえるのか、適正な準備金残高について伺いたい。</p> <p><b>【事務局】</b> 今後の見通しについていくつか資料を用意しているので確認をお願いしたい。 まず19ページに保険給付費の推計について掲載している。協会けんぽ加入者の平均年齢上昇や医療の高度化等により保険給付費は高い伸びを示していることが分かる。2024年度と比較すると、協会けんぽ加入者の保険給付費は5年先の2029年度には増加額の累計が2兆円、2033年度には累計7兆円増加することが見込まれている。 また、後期高齢者支援金の見通しについて24ページに記載している。団塊の世代が後期高齢者に移行することで2025年に後期高齢者支援金は急増し、その後も高い</p>

負担額で推移することが見込まれている。

このような見通しから、協会けんぽの財政は楽観を許さない状況であり、そのため適正な準備金残高をお示しするのは難しいと考えている。

10月の評議会において、来年度の保険料率について議論をスタートすることとなっており、その際、あらためて財政に関する資料をお示しし、ご意見をいただきたい。

**【議長】**

全国的な傾向として、賃金の増加による保険料収入の増加がありつつも、加入者一人当たり医療費給付費も伸びる中で、収支差はプラスとなったとの説明であった。

神奈川支部は全国平均よりも収支差がプラスであったとのことだが、要因となった神奈川支部の特性について伺いたい。

**【事務局】**

令和5年度医療費の分析については、10月の評議会でお示ししたい。

**議題2. 令和5年度 神奈川支部事業報告**

事務局より議題2について説明

**【議長】**

令和5年度 神奈川支部事業報告について、ご意見、ご質問をいただきたい。

**【学識経験者A】**

資格喪失者の健康保険証回収が課題と感じている。資格喪失した情報が紐づけされるためマイナ保険証は回収されないと思うが、マイナ保険証を使用することで健康保険証の回収は必要なくなり、この課題は解消するのか。

**【事務局】**

マイナ保険証に変われば健康保険証の回収業務は不要になる。今年度のKPIにも保険証回収は含まれているが、令和6年12月から新規の健康保険証発行は廃止されるため、その後はマイナ保険証への切り替え状況を見ていくことになる。

**議題3. 健康保険証とマイナンバーカードの一体化（マイナ保険証）に関する制度のポイント**

事務局より議題3について説明

**【議長】**

健康保険証とマイナンバーカードの一体化（マイナ保険証）に関する制度のポイントについて、ご意見、ご質問をいただきたい。

**【評議員一同】**

特になし

**特記事項**

- ・傍聴者 なし
- ・次回開催 令和6年10月予定